•••

	二惣は赤仕広て宮晴広く木の安て宮び惣る安は安れ木だ 直領風井草崎今園れ崎な山行永ク園立領う永主地永葉武さ	が 可 降 て 孫 く リ ち す の 吹 い 。 願 鎌 ち 増 愛 松 り 金 こ 瀬 の 本 末 山 ス 島 早 は 島 紅 川 務 守 き ん い 。 。 。 。 。 。 。 、 の 、 、 の 、 、 。 、 、 の の 一 の 一 の 一 の 一 の 一 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の の の の の 、 の 、 の の の の の の の の の の の の の	 顧 歩 ち 増 愛 松 り 金 こ 瀬 の 本 末 山 ス 島 早は島 紅 川 務 守 き 有 。 前 い 田 ぎ 岡 く 原 た 子 の 戸 受 田 家 下 マ 春₀田 二 野 め 住 上 で か 住 また フ 春 サ 験 族 た ス み 待 輪 と げ ま
る場合は別にしてください漢字にはふりがなを記入し	い。し、 広数 報種	広報投稿作	作 投 品 稿 の す
への重複投稿はご	、ださい	0	
	末武		選
の野面奔りて道の辺の	れ葉の	いき上	冬
訪れ	安永	守住	孝之
を豆がらで焚く慣		の務め、	と父室
	安永	川野	光
の希望のごとく可憐	ふるうす		輪蘭の
花咲く	惣領	島田	廣之
りに水仙の葉のな	らび立ち	ら早春	つ
蕾孕み	宮園		
く傍らになほ朱冴	ク	スマ	ス待い
ルビアもあ	安永	山下	たかて
大安の朝天気よく	の	く末家が	族で 近
3		本田	龍乙
より朗報来るも	くな	旅の受い	験は素
つ	広崎	瀬戸	イ
<	れ		春先生
となる	宮園		
という環状線に巡り	て 今	りた	たむ如
駅	広崎	松原	まゆっ
山に親子で暮らす狢い	3仕草司	可愛く	仕掛け
でき	赤井	増岡	伸
雲綿菓子思い見てお	ば風	ちぎ	7
べてしまうよ	惣領	鎌田	重
投稿は、一-	一 首 で	お願い	します

ココロに

カル

文芸

		_
		11卯0ら頃 「人手下己」
		拉致もダメ四島もダメ年の暮れ
		※参考例
ご意見番真弓		議員殿庶民の暮らしご存知か
八十路の花		のど元で「はいサヨウナラ」はやり風
鎌 太 郎		寝返りは敵も味方も風見鶏
		『お題』 自由詠
		コンピュータ新元号を探り出し
		※参考例
海のくるしみ		苦心惨憺新元号を産み落とす
平田の老女	10	元号ですか何のことやら分かりません
やぶにらみ		禁裏深奥新元号は秘中の秘
		『お題』 元号
布田川左門 選	布田田	川柳
山口サツキ		琴始め風に流れる田原坂一句鑑賞
辻ヶ峰子	田 原	修復の碑の輝きよ小春日よ
山口サツキ	木山	新居なりてキッチン染めるシクラメン
増岡 伸禧	赤 井	書き終えし年賀が出せぬ喪のたより
本田 賀子	小池	いちよう散るベンチに寒し老二人
阪口由美子	惣領	振り袖の丈より長し千歳あめ
鈴木駒	赤井	おれんじ鉄道友と再会初詣
土井 樹雄	馬水	初明かり限界集落旗が立つ
松原まゆみ	広崎	菜苑自慢デコポン自慢初日の出
瀬戸サイ子	広崎	亥の年よ平和なれかし初詣
全平選	河野	俳句

による開基で、津森城主代々の苦は天文五(一五三六)年に僧了空 下してしまいました。しかし、屋根 年)の建立とされる本堂は解体され 提所とあります。 門について紹介します。 要文化財」に指定された浄信寺の山 など建築装飾の様式や技法などか を示す記録はありませんが、彫刻 ます。山門については、建立時期等 駐車場横の敷地内で保存されてい を含む上部は変形がなく、現在は 柱脚部が大きく被災し屋根瓦も落 れる山門(被災前の写真参照①)も 成する重要な要素であったと想像さ ました。また、寺院正面景観を構 け、文化文政期(一八〇四~二九 文化財 浄信寺について、『肥後国誌』に 平成三十年四月に、「益城町重 熊本地震により大きな被害を受 益城の 文化財保護委員会 原 田 じ こう ざんじょうしん じ 慈光山浄信寺の 「山門」